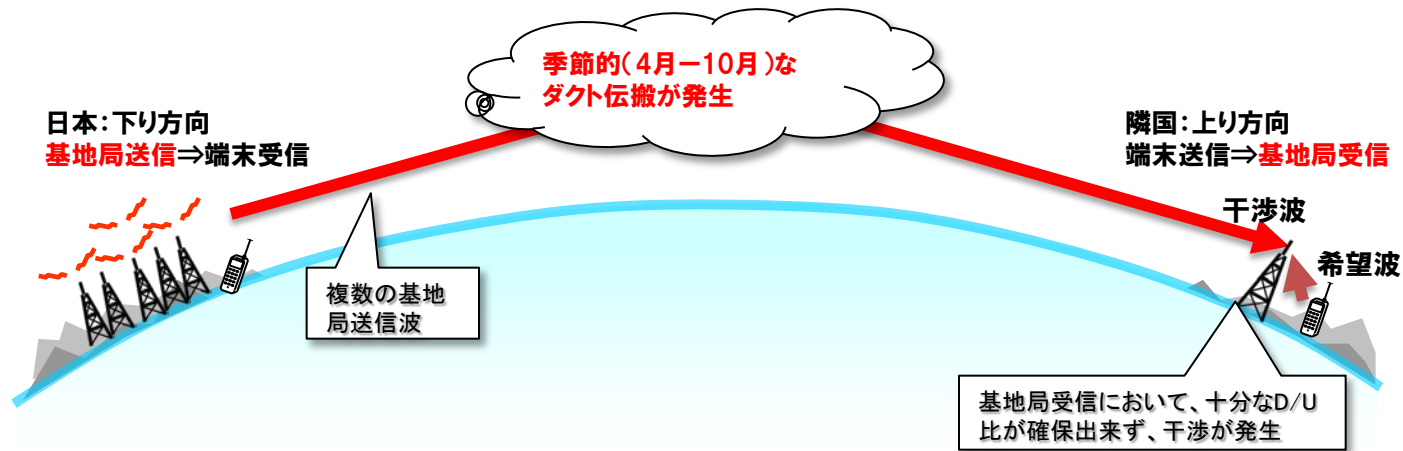


1 干渉発生メカニズム

- ・ 同一周波数帯の上下方向が逆転（日本：下り方向、隣国：上り方向あるいはその逆の関係）
⇒ 日本の基地局送信帯域が、隣国の基地局受信帯域と重複（あるいはその逆の関係）
- ・ 季節的なダクト伝搬（4月～10月）により、日本（九州等）の多数の基地局送信波が、隣国の南東海岸部の基地局で受信された
⇒ 隣国の基地局受信において、十分なD/U比が確保できず、干渉が発生



2 過去に発生した隣国との干渉発生事例

NTTドコモ及びKDDIグループにおいて過去に干渉発生例あり。

(KDDIグループの例)

① 日本基地局送信(810-885MHz)⇒韓国基地局受信(806-849MHz)

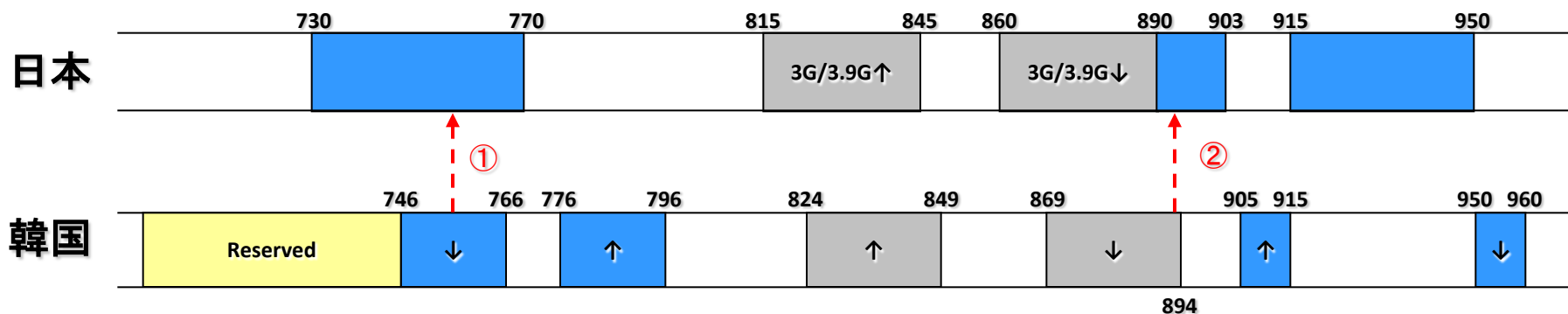
② 韓国基地局送信(851-894MHz)⇒日本基地局受信(885-958MHz)

※1. 九州地域にて発生。対象方式は、日本側:PDC・CDMA、韓国側:CDMA

※2. 2001年12月に政府間合意。該当周波数帯の使用停止により干渉回避

3 隣国との干渉検討パターン

- ・韓国では下図のような周波数アレンジメントが想定されている(正式に決定した事実はない)。その場合、700MHz帯及び900MHz帯の一部で重なる可能性のある次の組合せについて、干渉回避のための方策を検討する必要があると考えられる。
- ・干渉を回避するためには、周波数アレンジメントについて日韓間で情報交換を行うことが重要。



- ・上記周波数配置図に基づく干渉発生可能性がある周波数組み合わせは下表のとおりと考えられる。上図の仮定では、日本が韓国へ干渉を与えることはない。

番号	与干渉	被干渉
①	韓国 746～766MHz ↓	日本 746～766MHz ↑
②	韓国 890～894MHz ↓	日本 890～894MHz ↑